

そとおとどけ

2014年4月号 Vol.122



行事予定

4がつ

- 8日(火) 11時～ 麦のこ(乳幼児向けおはなし会)
- ★12日(土) 14時～ 土曜シアター(映画上映)
「一日だけの淑女」95分
- 13日(日) 11時～ 赤ずきん(おはなし会)
- 19日(土) 11時～ まほうの箱(おはなし会)
- 26日(土) 14時～ やまびこ会(おはなし会)
- 27日(日) 14時～ 図書館職員のおはなし会

5がつ

- ★4日(日) 10時～ おもちゃ病院
※受付は14時までです。
 - ★10日(土) 14時～ 土曜シアター(映画上映)
「ガス燈」114分
 - 11日(日) 11時～ 赤ずきん(おはなし会)
 - 13日(火) 11時～ 麦のこ(乳幼児向けおはなし会)
 - ★17日(土) 10時～ 春のわくわくおとどけ教室
※事前申し込みあり
 - 18日(日) 14時～ れろの会(おはなし会)
 - 25日(日) 14時～ 図書館職員のおはなし会
 - 31日(土) 14時～ ごくらくとん(おはなし会)
- ★はエニティホール、■は図書館2階で行います。

カレンダー

【4月】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【5月】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

※ ■ はお休み、太字 は17時閉館、
○ は行事がある日です



蔵書点検をおえて

2/17(月)～2/27(木)の間、皆様のご協力のもと、年に一度の蔵書点検を行いました。

その結果、本年度新たに判明した不明資料は **245点** となりました。

また、期間中に児童書の移動などを行いました。

お探しの資料が見つからない場合は、職員にお尋ね下さい。

お知らせ

5/17(土)に

○ 春のわくわくおとどけ教室を行います!

4/12(土)～受付開始です。詳しくは館内配布中のチラシをご覧ください。

○ 購入雑誌が増えました。

「Tarzan」(健康)、「NHKためしてガッテン」(暮らし)、「のぼろ」(アウトドア)

○ 4/23～5/12はこどもの読書週間です。

図書館カードは0歳から作ることができます。(身分証が必要です)

図書館で、たくさんの本と出会い、かけがえのない一冊を
みつけて下さい。



一般展示

「Best of Books 2013」
3/27(木)～5/27(火)まで

児童展示

「つなごろう*つなげよう」
3/27(木)～4/29(火)まで



直方市立図書館

〈開館時間〉

・火～土 10:00～19:00
・日・祝 10:00～17:00

〈問い合わせ〉

TEL: 0949-25-2240

URL: <http://www.yumenty.jp/library/library.html>

「あしたも、こはるびより。」

つばに英子・つばにしゅういち著 (590, 4ツ)

使い勝手の良いおうちで、80代のつばにご夫婦は、毎日仲良く元気いっぱい。キッチン・ガーデンの野菜や果物で愛する旦那様「しゅうたん」や、大勢のお客様にいつもおいしい料理をおもてなしする英子さん。仲良く暮らす工夫を厭わず、いつもふんわりももいろ空気をまとい、季節に合わせて暮らす素敵なふたり。

「フリティが多すぎる」

大崎梢著 (Fオ)

文芸志望の若手社員・佳孝は、春の異動で少女向けファッション誌の編集部配属されてしまう。コテコテにラブリーな服にファンシーグッズ…、ピンク色の洪水の中で佳孝が目にしたのは、ローティンモデルたちの熾烈な争いだ…!“カワイイ”世界の内幕に鋭く切り込んだ、痛快お仕事小説。

「花言詩(こはる)集」

中原淳一著 (627カ)

桃色のカバーが印象的な本書。タンポポ、クローバーなど道端で出会えるものから、花屋でしか見られないものまで37種の四季折々の花の、その花にまつわる物語や花言葉を紹介しています。美しいイラストが添えられ、見ごたえのある一冊です。

「地球 塩の旅」

片平孝著 (669カ)

人がどの生活になくなくてはならない塩。不純物などが混ざることによって、いろいろな色になるのですが、綺麗なピンク色は塩分を栄養にして藻が発生するからだそうです。観光地とはちょっと違うかもしれないけど、世界一周の塩の生い立ちを巡る旅も楽しいかもしれませんね。

「シフォン・リボン・シフォン」

近藤史恵 (Fコ)

さびれた商店街に、やわらかなピンク色の壁をしたお店がオープン。店内には、レースやリボンの華やかなランジェリーやナイテイングウェアが、訪れた人の行き詰った人間関係をほぐしていく。可愛くて綺麗なものを、入院患者や乳がんを患った人を気遣うものなど、下着はただの消耗品ではないのどと感じさせてくれる一冊。

「ピンクのぞうをしらないか」

佐々木マキ作・画 (EQ13サ)

世界一にいくつなサーカスがありました。お客も少なく、団員もどんどんやめて、芸をするライオンすらもよそのサーカスにいらしてしまいました。団長と残った団員は、ライオンよりもすごい動物、「ピンクのぞう」を探す旅にでます。さて、どうなることやら？クスッと笑える、サーカス団の珍道中です。

「さくら動物病院」

相戸結衣著 (Fア)

看板も診察室も筆記用具もピンクで統一された「さくら動物病院」。そんなふんわりとした雰囲気とは違い、院長のさくら先生は美人だが動物の話になると暴走してしまう性格。そのせいでお見合いをしても失敗続き。そんな先生のもとに初恋の相手が現われて…意外な展開に目が離せない一冊。

「ももいろ荘の福子さん -ぼんたネコババの巻-」

村上しいこ著 (KQ13A)

福子は小学4年生ですが、ももいろ荘の大家さんです。ある日、同級生のぼんたが拾ったカラッポの財布を、福子が代わりに持ち主のおじさんに届けました。ところが、落としにときにはお金が入っていたそうなのです…。「ぼんた、もしかしてネコババ？」ももいろ荘で起こる珍事件を軽快な関西弁で楽しく描きます。

「モンテロッソのピンクの壁」

江國香織作 (B726エ)

猫のハスカップは夢に見たピンクの壁に向けて旅立ちます。愛する人と別れ、ぼんの少しの不安はあるものの、眼の裏をピンクに染めて旅をします。色んな町や人と出会い、とうとうピンクの壁にたどり着いたハスカップは…。直木賞作家・江國香織さんの細やかな文章と人気絵本作家・荒井良二さんの鮮やかなイラストが楽しめる文庫版絵本です。

「やまざくらの詩」

さだまさし詩 (Q11, 5サ)

思い出がセピア色にというのは本当だろうか。記憶のなかで浄化されて、生々しい原色ではないのはわかる。しかしむしろ、さくら色と呼びたくなる思い出もある。それは、たとえばこの本のなかにある。好きなページを開いてみれば、山ざくらにつながっている詩と譜とそして絵がある。

「和みの百色 日本の四季を彩る」

吉岡幸雄著 (757, 3ヨ)

日本の四季には様々な色がある。中でも春の訪れを感じる桃の花。桃は中国が原産といわれているが、日本でも古くから親しまれ、日本書紀に「桃染布五十八端」という記載があり、女人たちは桃色の衣装をまとっていたのではないかとされている。本書では、他にも様々な色が紹介されており、日本特有の色を知ることができる。

「33歳からの「学び直し」メイク塾」

横山英子著 (595, 5ヨ)

自分のメイクに自信がありますか？メイクには、年齢にあったメイクがあります。ピンクは若い人の色だと遠慮していませんか？30代だからこそ明るい色を使いましょう！リップやチークにピンクを正しく使えば、あなたの顔はこんなに若返る！

「ふしぎな八つのおとぎばなし」

ジェーン・エイトン文 (KQ33エ)

「現代のおとぎばなし」という言葉がひらいたりの、不思議な八つのおはなしがまつた短編集です。登場するのは、お姫様や魔世、歌う青いクワ、海の王ネプチューン、火星人にすてられたかいじゅう、ピンクのヘビなどなど。のびやかな挿し絵が、おはなしのおもしろさをもりあげてくれます。

「さくらのまち」

小林豊著 (EQ13コ)

さくらは「まち」におりてくる。寒い風のなかでつばみをふくらませる。空をもも色にそめていく。もうすぐ、もうすぐ、みんな待っている…。誰もが心のどこかにさくらの風景を持っている。楽しい思い出、懐かしい思い出、切ない思い出、いろいろな思い出を持って、満開のさくらの元へ人が集まる。その思い出を大切にしながら、1年に1度のさくらの季節に読みたい大人の絵本。

今月のテーマは…

桃色

